

2022年4月1日

豊田工業大学 学長 保立和夫

豊田工業大学 入学式 学長式辞

本日、豊田工業大学にご入学・ご進学された皆さんに、心から歓迎の気持ちをお伝え致します。おめでとうございます。そして、学び舎として本学をお選び頂き、有難うございます。ご家族の皆さま、おめでとうございます。本年4月に、入学・編入学あるいは進学をされて、本学のお仲間に加わられた方々は、学部1年102名、学部3年4名、修士1年43名の皆さんです。

大学生活は、皆さんが社会人として活動するための大切な助走期間です。学修、研究、そして課外での活動を通し、社会人として世界に貢献してゆくための力を十分に鍛錬して頂きたいと思えます。皆さんの活動は本学の活力の源泉です。大学の主役は、学生の皆さんですから。念のために申しますが、大学での活動の目的は、良い就職先を探すことではありません。ご自身の能力を本質的に伸ばすことです。これができれば、皆さんには、おのずと広範な未来が開かれます。

本学は、トヨタ自動車の社会貢献活動の一環として1981年に開学しました。以来、関連企業の皆様からのご支援に支えられ、本務である教育と研究に関し自由で闊達な活動を展開して参りました。一昨年夏にはキャンパスリニューアルが完了し、教育と研究のファシリティが刷新されました。昨年には、開学40周年を迎えています。この間のご関連の皆様方からのご支援・ご鞭撻に、深く感謝申し上げます。

さて、21世紀社会には、様々な問題が顕在化しています。地球温暖化、自然災害の多発、資源の枯渇、貧富の差、等々です。地球での生命活動が危うくなってもいます。正に、持続可能な社会の実現が切望されているのです。また、今、世界各地で、極めて悲しい事態が起こっています。戦争や人権侵害です。これら問題を解決するには、私たちが、自ら考え、各問題に自身の意見を持ち、行動することが必要です。皆さんも、世界的な問題の解決に責任を負った「地球の構成員」です。

大学という高等教育機関の役割を確認したいと思います。大学は、専門に関する力を着けて頂くためだけの場所ではありません。「皆さんが人として成長してゆく」場所です。したがって、工学の単科大学である本学にも、人文学、社会科学、語学、健康・体力学、等々の科目が設定されています。工学にとって必要な、数学、物理学、化学等、理系の基礎科目もあります。勿論、多くの専門科目も用意され、学部での「学修」は多様です。4年次には卒論「研究」も行います。学部は、基本的に、「学修」に重きを置いた「人材育成課程」です。一方で、大学院修士・博士課程は、「研究」に重きを置いた「人材育成課程」となります。

つまり、皆さんが本学で展開される「学修」と「研究」の活動は、別々の営みではなく、「人材育成」という大学が果すべき機能を駆動する「両輪」であって、皆さんの能力を、幅広く深く、鍛錬するための二つの「手立て」なのです。

皆さんが「学修」活動を通じて獲得すべきことは、「知識の記憶」ではありません。「理解」が必要です。「帰結」つまり結論には理由があり、「理解」とは「帰結に対応した理由に納得するまで考える」ことです。「学修」は答えのあることへの対応で「研究」は答えの分からないことへの対応であると言われますが、これは間違いです。帰結に対応した理由を手繰っている間はまだ納得できていない訳ですから、この学修方法は未知への挑戦なのです。「記憶」ではなく「理由を手繰り納得する」学修は研究にも通じ、この学修法により「研究」への対応力も着くのです。

実際、「研究」遂行に必要な態度も、「帰結に対応した理由に納得するまで考える」態度です。「学修」「研究」で必要なこの態度は、実は「論理的に考える」態度なので、この態度に拘った「学修」「研究」の遂行によって「論理的思考力」が身に着きます。そして、「論理的思考力」は皆さんが社会人として「未知の課題」へ挑戦する際にも重要な力であって、自律した社会人としての活動を支えてくれます。

大学院では、「学修」活動も継続しつつ、「研究」活動へと重心を移します。「研究」によっても「論理的思考力」が育成され、社会人にとっても重要なこの力が増強されます。博士課程では、世界的な研究成果を挙げながら、論理的に考え纏め上げる力が鋭く鍛えられます。「学修」「研究」は、人材育成のための両輪なのです。

社会に出てからも、勿論、ご自身を高める鍛錬は続きます。しかし、大学は正に「自己育成」が成される「場」であり「時間」なのですから、この「場」と「時間」を有効活用され、自らを効率的に育ててください。したがって、学部、修士、博士のどの課程まで進むのがご自身にとって良いかに関し、よく考えて決めて頂く必要があります。本学には、博士院生の皆さんへの国際標準に叶う支援制度もあります。

「論理的思考力」は、工学分野での活動において役立つだけでなく、社会活動全般で役立つ「汎用力」です。この「汎用力」は、専門の「学修」「研究」活動に「付随して身に着く」ことを、よく認識する必要があります。このような「汎用力」には、この他に、「コミュニケーション力」「プレゼンテーション力」「協働力」などがあります。ただし、これら「汎用力」の獲得には、「学修」等の方法に工夫が必要です。暗記する「学修法」では「汎用力」は身に着かない、ということです。

修士ならびに博士課程でも、専門力をさらに深めると共に、「研究」活動を通して、様々な「付随して身に着く汎用力」の獲得を意識して頂きたいと思います。

現在、本学では、その「将来の姿」をどう描くのか、という検討を進めています。そこでの要点のひとつに、この「付随して身に着く汎用力」を獲得する方法の検討が挙がっています。学生の皆さんの「学修法」「研究法」の工夫、ならびに教員の皆さんの「学修指導演」「研究指導演」の工夫が、共に必要です。

さて、大学は「皆さんが人として成長してゆく」ための場所です。皆さんには、「地球の構成員」として、世界的な問題の解決に貢献する責任もあります。ですから、専門分野での「学修」「研究」だけではなく、一般教育科目の「学修」も求められています。つまり、「教養教育」が重要という訳です。しかし、カリキュラム中に設定できる科目数には限りがあります。

一方で、教養は「知識の量」で測るものではない、とも感じます。むしろ、「心を磨くこと」が重要ではないか、と思うのです。そうであるならば、有限の知識を基に「自ら考える」ことで「心を磨く努力を続ける」ことが大切です。「学修」や「研究」ばかりでなく、毎日ご自身が遭遇する様々な場面について復習したり反省したりする過程で、「心は磨かれる」ように思います。ここで、論語の一節が思い出されます。「学びて思はざれば則ち罔く、思ひて学ばざれば則ち殆ふし。」

論語には、こんな一節もあります。「子貢問ひて曰く、『一言にして以て終身之を行ふ可き者有りや』。子曰く、『其れ恕か。己の欲せざる所、人に施すこと勿れ』と。」「恕」は「如し」という漢字の下に「心」を書きますが、「思いやり」のことです。これは「教養」の尺度になると感じています。品位の「品」もそうであると。

私は、高校3年生のときの国語で、自分たちが選んだ小説をクラス全員で読んできて、何回かの授業時間を使って、徹底的に意見交換する機会を得ました。選んだ小説は、大岡昇平の「野火」。太平洋戦争末期に、フィリピンレイテ島で極限状況に直面した兵士の物語です。極めて過酷な状況下でも自分を律し続けるには、普段からどのような思考を蓄積していったらいいのか、そんな熱い議論を級友と交わしました。そのとき、私に浮かんできた漢字が、この「恕」という文字でした。

世界中で「恕」の心がもっと磨かれていたら、現在の「極めて悲しい事態」は起こらないのに、と思います。しかし、現実はそのような簡単ではないことを、人類の歴史が教えているし、今も思い知らされている訳です。私達の周囲に見える人と人との問題も、お互いに「恕」や「品」を重んずれば、起きずに済むのに、と思います。

皆さんにも、ご自身の心を磨き続けて頂きたい、と願います。私は70歳を超えました。論語なら、「七十にして心の欲する所に従いて矩を踰えず」となる筈ですが、まだこの「従心」の境地には至れません。私も、努力を続けます。

さて、新型コロナウイルス感染症の影響はまだ続きますが、学生の皆さんならびに教職員の皆さんと協力しながら、本年度も、大学の本務である「教育」と「研究」の活動をしっかり続けて参ります。「山椒は小粒でもピリ辛い」豊田工業大学の存在感は、もっと高めてゆけると信じています。皆さん、ご一緒に、頑張りましょう。

あらためまして、ご入学・ご進学、おめでとうございます。